

タイトル	食欲で世界を味わう
ポーランド語のタイトル	Z apetytem przez świat
テーマ *	c
名前	アンナ ジェロンコ
ポーランド語の名前	Anna Zielonko
学校名 * 2	ワルシャワ大学
学年	4年生
日本滞在歴	なし

\*a. 異文化理解 b. 現代の諸問題 c. 私の大切なもの d. 私からの未来へのメッセージから選択

皆さんは、大好きな物を食べた時、お腹いっぱいになりますか。私はうどんやチョコレートを食べても、全然いっぱいになりません。逆に、もっと食べたくくなります。ポーランドには「食べれば食べるほど食欲が増す」ということわざがあります。でも、これは食べ物だけではなく、他のことにも言えそうです。

私は子供の頃、色々な日本のアニメを見て、「日本語っておもしろい！」と思いました。それで、中学の時初めて日本語の辞書を買って、簡単な漢字を覚えました。しかし、それでは足りませんでした。もっと勉強したかったのですが、私の田舎には語学学校はありません。高校の時にちょっと文法の本を読みましたが、まだ足りませんでした。そしてやっと、大学の日本学科に入って、本格的に日本語を勉強し始めました。

しかし、人は一つのことをずっと追い求めていくと、疲れてしまいます。私もそうでした。二年生の時、健康状態が悪くなり、これ以上勉強するのは嫌になりました。壁にぶつかった私は、「もうこれで十分かなあ…」と思いました。けれども、ここであきらめたら、今までやってきたことが無駄になってしまう。それだけは嫌でした。そこで一度思い切って、大学を休学することにしました。その間、私は「そもそもなぜ日本語を勉強し始めたんだろう」と自分に問い続けました。どのくらい考えていたでしょう。ある時ふいに、昔見た日本のアニメが頭に浮かびました。「そういえばセーラームーンが好きで、『月に代わっておしおきよ』の真似をしていたっけ」と思い出したのです。そしてその日から、私は「ルーツ」に戻り、子供のように日本のアニメを見たり、ゲームをしたりしました。そして気づいたら、日本語は義務ではなく、再び楽しいものになっていました。前よりもっと頑張るようになって、日本語への「食欲」が戻りました。そのおかげで今ここで、皆さんの前でスピーチをしています。ここまでたくさんの経験をして来ました。でも、まだ足りません。日本語がもっと上手になりたいし、日本人の友達も作りたいし、日本へも行きたいです。留学できれば、果たして「食欲」はおさまるのでしょうか。

さあ、皆さん。皆さんは今までたくさんの経験をして来たでしょう。でも、もちろん、まだ足りませんね。これから、自分の興味のある事を研究し、世界に対して、いつも食欲旺盛でいて下さい。そして、壁にぶつかった時は、それが終わりではないということを忘れないで下さい。お腹がいっぱいになったら、すくまで待てばいいのです。食欲が戻れば、もっと世界を味わうことができるようになるはずですよ。

#### Podsumowanie(60-70 słów)

Jak głosi polskie przysłowie, „apetyt rośnie w miarę jedzenia” – jednak nie dotyczy to jedynie spożywanych potraw. Od dziecka interesowałam się językiem japońskim oraz kulturą tego kraju, dlatego też z wiekiem coraz bardziej pogłębiałam swoją wiedzę o Japonii. Jednak gdy człowiek cały czas podąża za tym samym celem, w końcu natrafia na granicę swoich możliwości. Wtedy warto powrócić do korzeni, aby przypomnieć sobie, co tak naprawdę skłoniło nas do podjęcia tej wędrówki. Dzięki temu powróci nam apetyt i będziemy mogli na nowo smakować życie.